



新名神高速道路 笹間ヶ岳工事
現場代理人 国枝 瑞樹さん

新名神高速道路本線工事のための進入用道路の建設が、現在4地区で進んでいます。その中の「笹間ヶ岳工事用道路」の工事を担当する(株)日建の国枝瑞樹さんに話を聞きました。

―工事の特色(概要)を教えてください。

―新名神高速道路本線施工のための進入路となる工事用道路工事を行っています。大津市田上関津町の市道から既設の笹間ヶ岳材料運搬道路までをつなぐ約900mの道路です。現在山中の木の伐採が終了し、道幅6.5mの道路を施工しています。

―工事で苦労した点はどこですか？

―掘削を進めていくと、工事に利用できる良質土が少なく、また土砂も粘土分が多い土質だったため、トラフィカビリティが悪く、土運搬時などの走

路確保に苦慮しました。対策としては、地盤改良を行ったたり、鉄板を敷くことで走路を確保しながら工を進めています。

―工事で特に気を付けたたり、工夫しているところは？

―現場周辺には5つの自治会と小学校や幼稚園があります。それぞれ事前に工事説明会を開き、建設中も定期的に工事進捗状況をお知らせしています。また工事車両は通行ルートを固定し、小学生の登下校時には通学路に交通指導員を配置するなど安全面に配慮しています。現場は出入口が一方方向にしかなく、多工種を同時にできないので、スムーズに工事ができるような工程管理に留意しています。

―完成に向けての抱負を聞かせて下さい。

―私はNEXCO発注工事の現場代理人としては初めてなので、不慣れなことも多く、ご迷惑をお掛けしながらの毎日ですが、地元の方が安全に通れるよう工夫した迂回路を、利用者からほめていただいたこともあり喜びを感じます。作業員の細かい意見を吸い上げるなどコミュニケーションを密にとり、一つ一つの施工を確実に、無事故で、7月の完成を目指していきたいと思っています。

*トラフィカビリティ
施工現場の地面が建設機械の走行に耐えるかを表す度合い



「新名神高速道路 笹間ヶ岳工事」平面図



安全パトロール(概要説明)の様子



安全パトロールの様子

事業概要

新名神高速道路は名神高速道路と適切な交通機能を分担することで、名神の混雑を解消し、高速道路ネットワークに求められる「高速性」「快適性」「安全性」「定時性」「信頼性」などの機能を高めるとともに、我が国の産業・文化・社会経済活動の振興に寄与することを目指しています。新名神大津事務所では、滋賀県域の12.2 kmを担当しています。



進捗状況

用地取得は、5地区が完了し、7地区で実施中です。進捗率は8割以上。埋蔵文化財調査については、8割以上が完了しています。新名神(滋賀県域)では、牧、中野、里・関津地区においては工事用道路工事に着手しています。また、牧地区においては、本線工事に着手しています。
大津市南部の自治会で形成される大津市南部三区新名神対

策協議会においても、早期着手気運醸成があり、安全に留意し、開通を目指して、行政・地域と一体となって事業を進めています。埋蔵文化財調査は、地権者の皆様と文化財関係部署のご協力を頂き進めています。
また、地域の皆様との交流を図るために地域イベントに積極的に参加し、高速道路事業のPR活動を行っています。

◆各地区の進捗状況(平成30年3月1日現在)

完了 ◆ 実施中 ◇ 実施予定 □

区間	進捗率(%)	大津JCT～滋賀県域(12.2km)											
		大津大石工事区(5.8km)				大津田上工事区(3.9km)				大津上田上工事区(2.5km)			
工事区		大石学区(6.4km)				田上学区(3.3km)				上田上学区(2.5km)			
学区名		大石学区(6.4km)				田上学区(3.3km)				上田上学区(2.5km)			
自治会名(km)		小田原町 2.1km	龍門町 2.4km	中町 0.4km	東町 1.5km	関津 1.0km	里 0.3km	枝町 0.7km	森町 0.5km	羽栗 0.8km	新免 0.4km	中野町 0.9km	牧町 1.2km
用地取得のための協議	設計協議	100	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
	幅杭設置	96	◆	◆	◆	◆※	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆
用地取得	82	94	99	100	22	62	100	77	98	100	100	46	100
埋蔵文化財調査	-	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◇	◆	◆	◆	◇	◆
工事着手	本線	2											◇
	工事用道路	-					◇	◇					◇

※境界未確定地を除く

工事の状況

笹間ヶ岳工事



工事用道路施工中

上田上牧工事

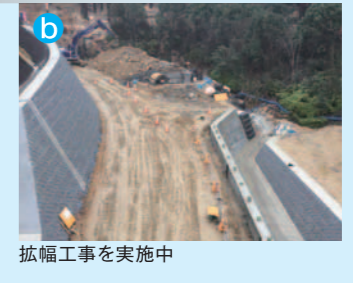


立木伐採作業中

牧工事用道路工事



工事用仮橋を施工中



拡幅工事を実施中



※この図は、航空写真・図面等により作成したイメージです。完成と異なることもあります。

新名神高速道路の开通について



昨年の12月10日(日)15時に高槻JCT・IC～川西IC間が開通し、今年の3月18日(日)15時に川西IC～神戸JCT間が開通しました。これにより、高槻JCT・IC～神戸JCT間(延長40.6km)が全線開通しました。

「第43回田上山卒業記念植樹」に参加

昨年の11月29日(水)に、大津市田上において田上山砂防協会主催の「第43回田上山卒業記念植樹」に参加しました。同日に、出前講座や寸劇が行われ、参加した小学生に、植樹の大切さを学んで頂きました。



どんぐり譲渡式

上田上小学校(昨年11月2日(木))、田上小学校(昨年11月27日(月))、大石小学校(昨年11月29日(水))で「どんぐり譲渡式」が行われました。これは、田上地区3小学校の小学2年生にどんぐりを拾って頂き、そのどんぐりをNEXCO西日本がお預かりして、高速道路の緑化用の苗木に育成する取組によるものです。



滋賀けんせつみらいフェスタに参加

昨年の12月16日(土)に、大津港業務用地で行われた「滋賀けんせつみらいフェスタ2017」に参加しました。滋賀県(道路課)・NEXCO西日本ブースでは、事業PRを行い、平成35年度の完成を目指す新名神高速道路での走行を体験できるドライブシュミレーターが大人気でした。



自然環境保全への取組

新名神高速道路の予定地には、保護・保全が必要な動植物が生息しています。

これら動植物を保全するために学識経験者を交えて対策を検討することとしており、1月25日(木)に「第4回新名神高速道路滋賀県域自然環境保全検討会」を開催しました。検討会においては、道路予定地付近に生息する猛禽類の保護対策、消失するため池等に生息する動植物の移植、付け替え河川の水環境保全対策などについて議論しました。



景観と調和する橋梁への取組

新たに道路を建設する場合、自然景観をできるだけ損なわないようにすることが求められ、特に橋梁については、その色合いが重要となります。このため、昨年の12月13日(水)に「橋梁等に関する景観アドバイザー会議」を開催し、学識経験者から、地元の風土・自然景観と調和がとれる色彩についての助言をいただきました。



田上山の緑の保全への取組

新名神高速道路は明治以降100年以上の歳月をかけ、植林によって緑を復元した田上山を通過します。このため、復元された緑をできるだけ傷めないような道路構造を検討することとしており、昨年12月21日(木)に学識経験者による「新名神高速道路田上山のり面対策検討会」を開催し、砂防事業の成果に配慮した道路のり面の施工方針について議論しました。



安全パトロールの実施

昨年の12月5日(火)に、新名神高速道路笹間ヶ岳工事において、新名神大津事務所管内安全協議会(安全パトロール)を開催し、大津労働基準監督署、NEXCO西日本、各工事の受注者など合わせて27名が参加しました。



スマートIC利活用等地域活性化委員会への参加

2月7日(水)に、大津市主催で開催された「第2回新名神大津スマートIC(仮称)利活用等地域活性化委員会」に参加しました。委員会では、宝塚市における地域活性化の取組み事例の紹介や本委員会における今後の取組みについて議論されました。

